会報　高鷲の文化財
第６２号
令和５年７月２１日発行
高鷲文化財保護協会
題字：麦島　博昭　氏

令和５年度第１回研修会『徳川家康』を実施

日時　**令和５年６月２５日（日）午前８時 00 分**
高鷲振興事務所前集合･出発

主な研修場所
①岡崎城と『どうする家康ドラマ館』

②道の駅藤川宿で見学･各自食事

③八丁味噌の郷見学

④桶狭間古戦場公園

岡崎城

振興事務所のマイクロバスを利用して，参加人数は７人でした。研修箇所の資料は、研修委員長の水上精榮氏が準備して下さり、車内では委員長が研修箇所の説明やクイズをして過ごした。
　また車内では参加者各自が今回の研修会に参加した目的などについて話し合いました。
　帰りは、名古屋高速から名神、東海北陸道を通り、川島 PA で休憩して、予定通り 17 時 30 分に高鷲振興事務所につきました。

八丁味噌の郷

参加者からの感想

馬渕旻修さんより

　今日(5/25)は、何時もの様に朝六時に起きて、テレビ体操をした後、朝食を済ませ、徒歩で集合場所の高鷲振興事務所まで行った。
　振興事務所に着くと既に皆さんが集まっておられ、8 時に出発。天気は晴れ、絶好の研修会日和、だが愛知県に入ると多少曇天になったが暑くもなかった。車内では西脇会長の挨拶に始まり、参加者から一言ずつ

挨拶があった後、副会長から『徳川家康』についてのクイズをしている内に岡崎城へ着いた。
　岡崎城は家康が生まれ、六歳から織田氏、八歳から今川氏の人質になり、1560 年に今川義元が桶狭間で戦死したのを契機に独立し、天下統一の偉業を始めた城である。現在の『どうする家康』の舞台になったためか観光客が大変多く、駐車場は満車、天守閣の中や、『どうする家康ドラマ館』等は見学者で一杯、ゆっくり解説を読む時間もなかったが、家康とその家臣団についてはある程度理解できた。またドラマ出演者の説明もしてあり、今後のドラマ展開が楽しみである。
次に、昼食を兼ねて道の駅「藤川宿」へ向かった。東海道藤川宿は、慶長 6年（1601）、東海道五十三次品川から数えて 37 番目の宿場町として栄えま した。街道沿いにはクロマツ約90本がそり立つ「藤川の松並木」や宿場町出入を示す「棒鼻跡」、江戸時代の門が残る「脇本陣」、また道中記や古歌に読まれた「むらさき麦」の栽培などに、往時の宿場町の面影を偲ぶことができるが、街道の両側は普通の民家で、中山道奈良井の宿のような観光地とはなっていなかった。

　昼食後、八丁味噌の郷を見学し、最後の研修地「桶狭間古戦場」へ向かった。この古戦場は名古屋市で住宅地の中にあり、公園になっていた。遺跡跡には分かり安い説明板はあり、その説明板を見ながら参加者は桶狭間の戦いなどについて意見を述べ合い、楽しい一時であった。
それから名古屋高速から東海北陸道を通り、18 時に高鷲振興事務所に着いた。
皆さん、お疲れ様でした。

和田和美さんより

　「どうする家康」じゃないけど迷いに迷った研修でした。しかし、参加させていただき良い勉強となりました。有難うございました。

“家康の天守に登り風薫る”

和美